Newsletter
URL:www.savechildren.or.jp

world's children

Save the Children JAPAN
発行元 社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
〒101-0047 東京都千代田区内神田2-8-4 山田ビル4F Phone:03.6859.0070【新住所】
Winter 2008 No.46

それは小さいけれど重く 子どもたちからのSOS！



世界中で、子どもに対する暴力が社会的、文化的に容認されています。セーブ・ザ・チルドレン（以下SC）は社会の中で覆い隠されてしまう子どもに対する暴力と闘っています。日本でも子どもたちを取巻くこれらの問題に立ち向うべくチャイルド・ライツ・センターを設立し活動しています。

暴力に反対する子どもたちの声

- 多くの大人が、ほほをパチンとたたくことくらい大したことじゃないと言う。でも、ハンマーで殴られたように感じることがあるんです。
- 「お前なんか私の子どもじゃない」なんて言われると、さみしい気持になる。
- 僕の彼女は、継父にせっかんされ、それを母親に伝えると、体罰を受けた。なぜ、私たちを信じてもらえないのだろう。若いことは損です。
- 母が私の髪を引っ張ると、痛みで目が飛び出そうになりました。大嫌いです。
- 先生は、自分が間違いを犯したことに気付いている。でも、黙認されることも知っている。
- 家を一歩出ると、体の不自由な私を人々が指さして笑います。「なんだその歩き方は、ちゃんと歩けないのか・・・」と。

暴力には、いろいろな形があります。思いやりのあるしつけと感情にまかせてしかることは違います。また、大人にとっては些細なことに思えるようなことであっても、子どもにとっては重大なことであったりします。感情にまかせてしかることは、子どもの人としての尊厳を無視した行為です。子どもを思って行う親の行為が子どもには理解できないことがあります。時には“子どものため”という気持ちだけでなく、子どもの目線に立ち子どもの声を聴くことが大切です。大人が力によって子どもを押さえつけ、恐怖心を植え付けることはあってはならないことです。暴力は子どもの心身の発達と人との良好な関係を阻害し、社会生活を困難にするリスクもあります。

世界に見る暴力の実情

2006年秋の国連総会で報告された国連事務総長「子どもに対する暴力、調査・研究」は、家庭、学校、施設での暴力をはじめ、子どもへの労働搾取、人身売買、女性器切除の問題など、子どもに対する暴力が、すべての国や社会的集団で今なお起こっていることを明らかにしました。暴力の根絶には、暴力の大小にかかわらず、社会のあらゆる人が関わる包括的な取り組みを進めることが重要であると指摘されています。SCは、世界規模で実施されたこの調査・研究で、重要な役割を担いました。この調査・研究以後、SCをはじめ、多くの組織が子どもに対する暴力根絶を目指し積極的な取り組みを進めています。



ネパール教育支援より

「すべての子どもに教育を！」この合言葉の下、SCはネパールで教育支援を実施しています。子どもたちを労働から解放することによって初等教育へのアクセスの確保を達成しようとしています。家事や農業を手伝うため学校へ通わせることができないという親（保護者）の都合は、子どもの教育を受ける権利に対する侵害です。この問題を解決するため、親（保護者）への支援と意識改革を進めています。この活動が効果を見せはじめ、支援地での就学率が上昇してきています。支援者である皆さんの思いが届いた結果です。

しかし、学校をやめてしまう子どもも多く、小学校を卒業できる数が微増に留まっています。原因は、学校で体罰が横行していること、嫌がらせがあることが問題であると判明しました。現在は、先生に対する研修に力を入れています。また、地域行政、中央政府に対しては、公立学校への行政指導や法律により体罰を禁止するよう働きかけています。

さらに、反政府武装勢力や政党が子どもを強制的に動員しようとしたり、学校を強制的に休校にしようとすることがあり、これも子どもの教育を受ける権利の侵害につながります。そこでユニセフやネパール政府とともに「子どもと学校を平和ゾーンに！」というキャンペーンを実施しています。

日本での取り組み

厚生労働省の調べによると、子ども虐待の相談件数がここ15年間で3倍にふくれあがっています。子育てについて悩みを抱える大人は52.3%にのぼります。国の指針である青少年育成大綱は、子どもの主体性を伸ばす「子ども観」へ社会が変革することを要請しています。こうした状況下、子どもたちが、子ども時代を子どもらしく健全に暮らすためには、家庭を含め、社会のあらゆる場面（学校、施設、コミュニティーなど）から子どもに対する暴力をなくす必要があります。セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン（以下SCJ）は、以下のような具体的な取り組みをはじめています。

- ●予防・啓発活動
- ●国内外での情報収集、調査・研究（子どもの声の反映）
- ●行政、他団体、企業等との連携促進
- ●国、自治体、コミュニティー各レベルでの政策提言（準備中）

これら一連の取り組みは、一昨年、子どもの権利を社会に広める目的で設置したチャイルド・ライツ・センターの主要施策として実施しています。その一環として、今年国際シンポジウムを開催し、また『ポジティブ・ディシプリン～子どもの力をのばすしつけ』の啓発や『Speaking Out ～みんなで話そう～』を展開しています。

「国際シンポジウム」報告

『THINK! Child Rights 2008世界が動く！子どもの力を伸ばすしつけへの変革』と題し、6月6日（金）に東京でシンポジウムを開催しました。支援者の皆さんをはじめ、NPOや施設、行政、民間企業と、様々な方々にご参加いただきました。シンポジウムでは、子どもに対する暴力の国内外の動向を共有しました。SCからも提言を行い、『ポジティブ・ディシプリン～子どもの力をのばすしつけ』（下記参照）の紹介を行いました。



シンポジウムの様子

みんなが悩んでる チャイルド・ライツ・センターからのおすすめ

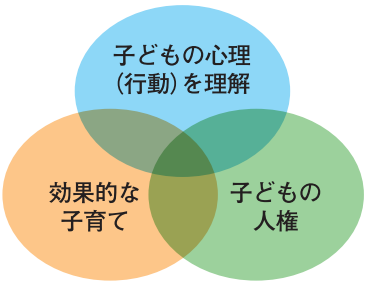
子どもをりっぱな大人に育てたい！でも、どうやって育てたら良いかよくわからない。日々の子育ては、ストレスがいっぱい。忙しいし、落ち着いて考えられない。つい、ぶったり、たたいたり、頭ごなしにガミガミ言ってしまう。自分もいやな気分だし、子どもが育っているのか、とても不安。そこで、、、

ポジティブ・ディシプリン ～子どもの力をのばす「しつけ」

ポジティブ・ディシプリンは、こうしたネガティブなサイクル（悪循環）を、ポジティブで肯定的なサイクルへ転換することを意図し開発された、しつけ/子育て、教育のためのガイドです。子どもの発達研究、効果的な子育て研究、子どもの人権原則を基礎に出来上がりました。

ポジティブ・ディシプリンは、どんな状況・場面でも使える実践的ガイドです

- ●ぶったり、たたいたり、頭ごなしに怒ったりする「しつけ」からの解放
- ●子どもの主体性の育成
- ●親が持つストレス軽減
- ●親子間コミュニケーションの重視
- ●放任主義でも、過保護でもない「しつけ」



日々の子育てに苦労を感じているお母さん、お父さん、子どもの誕生を間近かに控える若い父母、ライフワークバランスが叫ばれる昨今、親子の絆をより深めようと積極的なお父さん、お母さんなどに是非知っていただきたいガイドブックです。教育、保育に従事している専門家の方にも、自己診断、初心に立ち返るなどの目的でご利用いただけます。

ポジティブ・ディシプリン実践ガイド（翻訳本）は、明石書店から発売されます。自治体や企業に対するセミナーも実施します。
出版、セミナー実施に関するお問い合わせは、チャイルド・ライツ・センター（担当：田沢） メール center@savechildren.or.jp Tel 03-6859-6869 までお願いします。

DATA で見る SC
セーブ・ザ・チルドレン

子どもたちが子どもの権利を知り、考え、行動するプロジェクト Speaking Out

子どもたちはものすごい勢いで変化する社会の中で『生きる』ことと闘っています。そんな子どもたちが守られると同時に、子どもたちの声が聴かれ、一人の人間として尊重されることはとても大切です。今を生きる日本の子どもたちが、世界の子どもとつながりながら、「子どもの権利」を知り、考え、そして声に出して行動する力を引き出すこと、それがチャイルド・ライツ・センターが行う“スピーキングアウト”事業です。

Speaking Outとは・・・

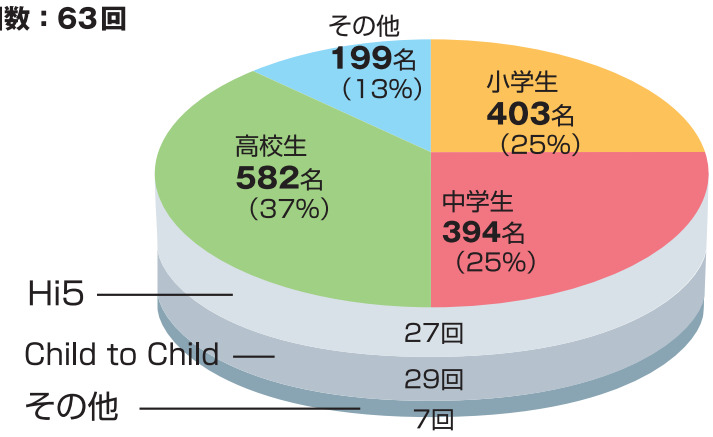
みんなで話そう Speaking Out

SCJの日本の子どもに対する教育事業です。スピーキングアウトに参加した子どもたちが、子どもの権利の視点を持ち、意見を表明していくことを目的としています。SC UKの同事業を参考に、2003年より開始し現在までに、主に小・中・高校生を中心とするのべ15780名とボランティアのべ1082名が参加しています。
（2008年10月末現在）



2008年1月～10月参加者詳細

参加人数：1578名
開催回数：63回



Hi5プログラム

～知ることからはじめよう！～

子どもたちがSCを通した国際協力活動を知るためのポスター教材を利用したプログラムです。『世界の現状』、『難民』、『紛争下の子ども』などのテーマごとに、子どもたちが楽しみながら、世界の現状や国際協力活動について学んでいます♪

※現在、このHi5プログラムを私たちと一緒に展開してくださる方を募集中。

Hi5とは・・・ハイタッチのことを言います。使用する教材がイラストや写真が豊富なので、子どもたちはより分かりやすく楽しく学ぶことができることから、この呼び方をつけました。



子どもたちの声

- 「今日初めてわかったことはいっぱいあった。たとえば、なんみんキャンプがすごくたいへんだったこと」（小学生）
- 「紛争下の子どもが働いていたり、地雷で手足がなくなってしまったりすると聞いて、できることがあったらやりたいなと思った」（中学生）



Child to Child プログラム

～伝えよう！自分のこと 世界のこと～

SCが高校で連続したワークショップを実施し、子どもたちが子どもの権利を理解し、自分のこと・世界のことについて他の子どもたちに伝えていくプログラムです。今年度は、大阪府下の高校3校、東京都下の高校2校で実施しています♪



子どもたちの声

- 「自分が疑問に思ったことを、調べて、知って、伝えることの楽しさを知った」
- 「自分はこれから伝えることができる。感じたことを伝えていきたい」



Child to Public キャンペーン

～伝えよう！た～くさんの人へ～

日本の子どもたち（小学校高学年～高校生）が自分たちのメッセージを映像(1～2分)で発信するウェブキャンペーンです。SCJが2008年10月～2009年2月に全国25ヶ所で実施するワークショップへの参加を通じて、子どもたちは子どもの権利の視点から映像を制作し、応募します♪

※現在“Child to Publicキャンペーン”への参加者を募集中

詳しくはホームページにてご確認下さい。





子どもたちの声

- 「自分たちに何が出来、何が伝えられるかをみんなで考えられてよかった」（高校生）
- 「映像を作って、実際に自分たちができることを自分でも感じられた」（小学生）



インターネットから簡単に申込みできます。同封しました振込用紙をゆうちょ銀行（旧郵便局）にお持ちいただいても結構です。

www.savechildren.or.jp セーブ 検索

＊東京本部は右記に移転致しました。　〒101-0047 東京都千代田区内神田 2-8-4 山田ビル 4F　TEL 03-6859-0070　FAX 03-6859-0069

From SCJ



田沢茂之（たざわしげゆき）
法政大学哲学科卒業
米国ピッツバーグ大学大学院修士課程修了
経済社会開発専攻
2003年12月よりSCJに勤務。現在、チャイルド・ライツ・センターにて子どもの保護活動を担当。

教育の現状についてレポートします

チャイルド・ライツ・センターの核となり子どもたちの人権問題に取組む日本の現場からのレポートです。

子どもたちと大人の間にある問題点を教えて下さい。

多くの親が、子どものためにと本当に一生懸命です。それでも親子間ではコミュニケーション不足があるとの指摘があります。問題は、時間の長短ではなく、むしろ、質や方法にあるような気がします。社会変化に伴い過去に有効であったコミュニケーションのあり方が円滑に機能しなくなったりします。たとえば、近所付合いが希薄になっている現在、かつて隣人たちが果たしてくれたクッション的役割を親が果たす必要が出てきています。ストレスの多い社会の中にあっても、親(保護者)は、さらに質の高いコミュニケーション、子育て力をつけることが求められています。こうした社会の変化がある中、親（保護者）をサポートする制度改革が追い付いていないことも問題だと思います。

SCJから見る日本の家族が抱える問題は？

格差の拡大、核家族化の進行は、社会の大きな変化です。共に、親（保護者）のストレスの増大につながります。子育ての仕方が分からない親が増えているといわれますが、そうした親が生活における不安を抱える昨今、ストレスの連鎖など子どもへの負の影響が懸念されます。

虐待など子どもに対する暴力の解決に一番必要な事はなんですか？

新しい「しつけ･子育て」法を知ることや、教育に関する制度を改革することが必要です。「しつけ」の名を借りた暴力を無くすためには、法律を改定することが必要かもしれません。家庭内での軽度の暴力（ぶったり、たたいたり、罰すること）を法律で禁止したスウェーデンなどでは、子ども虐待対応件数が減少しました。

子どもの教育に不安を持っている親の方々へメッセージをお願いします。

ポジティブ・ディシプリン普及に努めるSCだけではなく、地元行政（市町村窓口）や各地域にあるNPOなど多くが、子育て、家庭教育などのサポートを実施しています。子育て、教育で悩んでいる親（保護者）は少なくありません。そうしたサービスを受けることは、恥ずかしいことではありません。是非そういった窓口も活用してみてください。



皆さまのご支援により支援活動を継続中

たくさんの方々の力で災害･紛争直後だけでなく継続的に支援活動を展開しています。

緊急支援活動報告

スリランカ　いまだ内戦は続く

内戦が20年以上も続いているこの国では、これまでに6万人が犠牲となり、100万人以上が避難民となったと言われています。北部では今もなお戦闘が続いています。東部では避難民の帰還が始まっていますが、子どもたちは深い心の傷を抱えているケースが少なくありません。村に戻っても、街は破壊されたままの場合が多く、誘拐や虐待の危険もあり、厳しい生活が待ち受けています。

そこでSCJは、30年以上活動を続けている現地のSCや地域の大人たちと協力して、緊急教育支援事業を実施しています。現在までに、就学前児童810名を対象に、臨時の早期幼児発達（ECD）センターの整備、ノートや色鉛筆など教育活動に必要な緊急キットの提供、約半数が栄養失調とも言われている子どもたちの栄養状態向上のための補助食の提供を行いました。また、ECDセンターの教員および保護者や運営委員75名に対して、“子どもの安全と保護”に加え“運営に関する実務的”な研修をそれぞれ実施しました。



中国　大地震から半年、、、

四川大地震から半年以上経った現在もSCは活動を行っています。現地ではいまだに多くの被災者が避難生活を送っており、余震も続いています。今回は、9月に入った際の支援地の現状をお伝えします。

四川省省都の成都から2時間、被災地の安県に入ると崩れた家々や仮設住宅、テントなどが目につくようになります。小学校や幼稚園はプレハブの簡易校舎でしたが、狭いながらも校庭で走り回る子どもたちの元気で明るい笑顔が印象的でした。しかし、先生方の話によると、地震後情緒不安定になったり、問題行動を起こすようになった子どもも多く、心理ケアの重要性を感じます。SCでは、被災した子どもたちの心のケアに取り組み、笑顔が戻るように支援しています。



ミャンマー　大型サイクロンから7ヶ月

240万人もの被災者を出した大型サイクロンから7ヶ月が経ち、世界の関心が薄れた現在でも、SCは今後2年間の復興支援を見据え、支援活動を継続しています。災害直後、いち早く緊急支援を開始したSCは食糧をはじめとする緊急支援物資の配布や巡回診療、学校修復、チャイルド・フレンドリー・スペースの設置を通じた心のケア等の活動を通じて約50万人の支援を行ってきました。

災害により約100万人が生計手段を失ったことから、SCJは特に被災住民の生計の立て直しに力を入れており、被害の大きかった地域において緊急漁業復旧支援事業を実施しています。小型ボートと魚網を配布し、食糧確保による子どもの健康状態の改善とともに、家庭の収入を安定させることを目標としています。ひいては子どもたちが教育や医療を受けられることを目指しています。

また、子どもたちの栄養状態を改善するため、日本の自治体からの提供を受け、乳幼児を持つ母親に乾パンを配布すると同時に子どもたちの栄養改善を目的として栄養研修を実施。子どもたちの心のケアも引き続き行っています。



これらの緊急支援事業は、皆さまのご寄付と共にジャパン・プラットフォームの助成を受けて実施しています。

パートナーニュース

Partnership

企業からのご支援は、様々なアイデアから気軽に始めていただいています。
最近では特長を生かしたユニークな事例が増えてきています。

●IKEA



世界中のIKEAでこれまでに3回行われ、合計約880万ユーロ（約14億円）もの寄付金が集まった「ソフトトイキャンペーン」。今年は国内の店舗数も増え、船橋、港北、ポートアイランド、鶴浜、新三郷の5つの店舗でソフトトイ（ぬいぐるみ）が購入できるようになりました。国内全店舗での売上の一部はSCJに寄付され、全世界のIKEAからの寄付と合わせて世界中の支援活動に使われます。今年はSCJ本部事務所の移転にともなってオフィス家具のご協力もいただきました。

●株式会社マ･メール



「世界の子供服マ･メール」では、2008年サマーチャリティーセールを開催、子ども服と絵本の売上一部をご寄付いただきました。また、会場ではパネルと募金箱も設置し、来場いただいたお客様にSCの活動を紹介いただきました。“「この絵本を買うと、遠くのお友達にプレゼントができるんだよ」と子どもと話す家族連れの姿もみられ、子どもをもつお客さまに共感いただきました。絵本がチャリティを身近に感じてもらうきっかけになれば”と、担当者の方。マ･メールは、1999年より10年にわたってご支援くださっています。

●株式会社ホテルオークラ東京



株式会社ホテルオークラ東京では10年以上にわたり募金箱を設置いただいています。さらに今年で9回目を迎えたGWのイベント「10カ国大使夫人のガーデニング in Okura」の入場料の一部をご寄付いただきました。同イベントは入場者が2万人を超える国際的なガーデニングショーとして高い評価を得ております。今年から初のチャリティイベントとして開催され、今後も同様にご支援いただく事になりました。来年のGWの予定（5月2日～6日）に加えてみてはいかがでしょうか。

●株式会社M'sDS



株式会社M'sDSからのご支援は、リボンマグネットの売上一部寄付から始まり、リボンステッカーやリボンピンバッジの販売へと発展し、同社が今年から開始した「コーズリボン･プロジェクト」を通じ、様々な商品の売上からご支援をいただくという形で広がりました。その第一弾としてSOLATINA（有限会社キューズ）から今秋に革財布が販売され好評を得ています。同プロジェクトは社会貢献として同社の取組みに賛同する企業を巻き込みながら、今後も続々と商品が販売される予定です。

Rewrite the Future

「Rewrite the Future～いっしょに描こう！子どもの未来」

皆さまの力で、子どもたちの未来が変わりつつあります。



「Rewrite the Future～いっしょに描こう！子どもの未来」は、紛争の犠牲となっている子どもたちに教育の場を提供し、安全な環境と未来を変える力を与えることを目的にした教育支援キャンペーンです。2006年から世界中のSCのメンバーが一丸となって活動しています。

このキャンペーンも開始から早2年が経ち、たくさんの方々の力で世界中で3億ドル（約300億円）ものご寄付が集まりました。皆さまの力で教育改善支援を行い、570万人もの子どもたちが実りある教育を受けられるようになりました。そのうちの815,000人は学校に行っていなかった子どもたちです。これは、毎日2校のペースで学校を開校するのに等しい数値であり、着実な進歩です。しかし、現在でも3,700万人の子どもたちが、紛争と不安定な状況下で目を覚まし、学校に通うことができません。彼らには依然として、教育の機会も、よりよい生活を得られる見込みもないのです。しかし、私たちは、この状況を変えることができると信じています。皆様のご支援に感謝するとともに、さらなるご協力をお願いいたします。